

# 公共図書館との連携による「ビブリオトーク」の実践

笹 倉 剛

## はじめに

兵庫県K市では、数年前より読書活動推進のために、全市をあげて読書活動推進に取り組んでいる。今回のビブリオトークの実践は、K市の4中学校で「ビブリオトーク」を通して生徒の読書活動を推進するというものである。中学1年生を対象に、最初に読書の意義や大切さを解説し、2冊の本をビブリオトークで紹介した後、各中学校ともに4,5名の生徒が読んだ本の感想をビブリオトークという形式で発表を行った。時期的にコロナ禍のこともあり、研修会場は体育館や武道場などの広い場所を利用して実施した。

事前に各中学校の国語担当の先生には、笹倉が執筆したビブリオトークの本を配布し、ビブリオトークとは何かを理解し、生徒に指導していただいた。

今回の取り組みは教育委員会、図書館、学校が連携し、取り組んでいるところに大きな意義がある。あらかじめ教育課程の年間計画として位置づけ、このような事業を計画し実践していくことで、実り多い研修になると思われる。

## 1 ビブリオトーク実践の概要（各中学校）

各中学校での実践は、下記のような流れで行った。

① 読書の意義等を解説	② 2冊の本のビブリオトーク	③ 生徒のビブリオトーク(4, 5名)	④ 本の貸出(図書館)	⑤ 研修会の感想
-------------	----------------	---------------------	-------------	----------

- ① 子ども時代の読書の意義や大切さをパワーポイントで解説(笹倉):20分  
(要旨):感受性が豊かなヤングアダルト世代(中・高校生)こそ、読書から得られる考え方や情報が、今後の自分探しの旅や生きがいに大きくつながっていく。そういう意味では、ヤングアダルト時期に出会ってほしい本がたくさんあることに気付いてほしい。何気なく読んだ本が、人生の中で決断を迫られた時や困ったときなどに大きな力となることを知るべきだということ。読書とは「ためになる」というものではなく、「楽しみ」がキーワードとなるように考えるべきである。
- ② 2冊の本をビブリオトークで紹介(笹倉):10分
- ③ 4,5名の中学生の代表がビブリオトーク:15分
- ④ 会場の各テーブルに中学生へのお薦めの本を展示し、各自が借りたい本を選び、市立図書館が貸し出しを行う:20分(※笹倉のお薦めの本:100冊、市立図書館のお薦めの本:多数)
- ⑤ 教室に帰り、本日の感想を書く:15分

## 2 読書の意義や大切さを解説(笹倉がパワーポイントで生徒に説明)

### ① 「本があなたの人生を変えるかもしれない」

感性が豊かなときにこそ、本から受ける影響は図り知れない。世の中で成功してきた人の多くは、本から偉大な影響を受けていると言える。しかし、日常生活の中で直接に偉大な人から影響を受けることは難しい。しかし、本であれば「いつでも」「どこでも」「手軽に」そのような世界へと入っていき、素晴らしい体験ができるのである。

### ② 本が「好き」「嫌い」の調査

各中学校で、どちらかと言えば本が「好き」「嫌い」について挙手で調べ

る。

「好き」と答えた生徒は、だいたい3分の1程度であったが、ある中学校では7割程度の生徒が「好き」と挙手した。(※この中学校は、昼休みに学校図書館に多くの生徒が訪れるという実態があった。)

③ 読書をもたらすものとは何か

本は私たちの生活に何をもたらすのか。人との出会いが人間を変えていくことが多いが、そのモデルが読書である。読書は、過去の偉人や出来事など、また国や時代を超えて世界中の人との出会いが可能となる。青春時代は短く、無駄にしている時間などない、ということに気付くべき。

④ 感性が豊かなときに、出会い(出会い)たいもの

感性が豊かであるほど、心に与える感動や影響は大きい。この感性が豊かな時代をヤングアダルト世代(中・高校生)という。しかし、その年代で出会ってほしいことや本が、通り過ぎていくことが多い。本との出会いや人との出会いは、人生を変えたり生涯の仕事を見出したりすることもある。

⑤ 読みたい本に出会える場とは

友達から聞いて読む場合。図書館や書店で探して読む場合。話題になっている本を読む場合。映画やアニメなどで上映された本を読む場合。教科書などで掲載された作家の本を読む場合。推薦図書として掲載された本を読む場合。など

⑥ 味見読書とは(味見読書の推薦!)

自分が読んでみようと思う本を最初から5分ほど読んでみる。これが「味見読書」である。料理と一緒に、その本の最初を読み、読みたい本かどうか(おいしいかどうか)味見してみる。それで気に入ったら読んでみる。(※作家は最初の数ページは、全身全霊をかけて書いているから。)

⑦ ビブリオトークとは

- ・一人または数人で本を紹介する方法。
- ・本を紹介するときは作家に敬意を払う。

- ・発表時間は3分から5分で実施。
- ・本の紹介は、著者、あらすじ、おすすめのポイントなど（※どうしてその本を選んだのかも付け加えるとよい。）など。

### ⑧ 物語の終わり方

物語（フィクション）の終わり方には、次のように3種類ある。

- ・クローズドエンド型・・・お話が問題なく閉じているような読み物。  
昔話のように「～しあわせになったとき。」のように完結している読み物。
- ・セミオープンエンド型・・・お話が終わっているが、何となくまだ続いているような感じがするような読み物。
- ・オープンエンド型・・・お話が途中で終わっていて、完結していない読み物。

ヤングアダルト世代は、オープンエンド型の本に挑戦することの意義について説明。日常生活でも大人になっていくにしたがって、自分自身で考え、解決していくことが増えていくことから、オープンエンド型の本は常にそのようなことを考えさせてくれるきっかけを与えてくれる。

## 3 ビブリオトークでの本の紹介事例

ビブリオトークの研修日はコロナ禍のこともあり、体育館や武道場などの広い会場を利用して実施した。中学1年生が対象であったが、どの会場でも私語などはまったくなく、熱心に聞き入る様子が印象に残っている。生徒の発表でも、特に友達の発表ということもあり、どの生徒も目を輝かせて聞いていた。生徒はビブリオトークという言葉を事前に学習していたので、案外スムーズに進めることができた。

### ① K市立A中学校

<笹倉のビブリオトーク> 2冊紹介

- ・『君たちはどう生きるか』吉野源三郎 作、マガジンハウス

- ・『種をまく人』ポール・フライシュマン 作、あすなろ書房



※『君たちはどう生きるか』は80年ほど前に書かれて本であるが、ベストセラーになり話題になった本である。青春期を悩みながら生きた主人公の考えや行いから、学びたいことがちりばめられている。『種をまく人』はあまり知られていない本であるが、中学生の推薦課題図書になった本である。アメリカの治安の悪い地域で、荒れ地に花や野菜を植える人が少しずつ増えてきて、地域が変わっていく様子をフィクションとして綴っている。ほのぼのとした人々の生き方から素直に感じられるものがあり、読書が苦手な生徒でも読みやすい本である。

<生徒のビブリオトーク> 5人が発表

- ・『獣の奏者』上橋菜穂子 作、講談社
- ・『幽霊屋敷のアイツ』川口雅幸 作、アルファポリス
- ・『子子家庭は大当たり!』赤川次郎 作、新潮社
- ・『どこよりも遠い場所にいる君へ』阿部暁子 作、集英社
- ・『推し、燃ゆ』宇佐美りん 作、河出書房新社

② K市立B中学校

<笹倉のビブリオトーク> 2冊紹介

- ・『博士の愛した数式』小川洋子 作、新潮社

- ・『老人と海』ヘミングウェイ 作、新潮社



※『博士の愛した数式』は映画にもなり、よく知られた本であるが、原作を読んでいない生徒が多かった。博士の記憶が認知症のためにどんどん薄れていく現実に対して、どうなっていくのかという不安の気持ちが物語を引き付けている。こういう本は原作を読むことと、映画を見ることとの違いを知ること楽しみである。『老人と海』はヘミングウェイの著名な作品であるが、老人が大きなカジキを釣り上げて、それを港まで命からがら船で引っ張っていく姿に老人の執念のようなものを感じることができる。我慢強く何事にも負けないという意味では、今の中学生には内容的に読んでほしい本ではあるが、まったく知らない生徒が多かった。それだけに、ビブリオトークでの話に興味をもって聞いていた。何人かの生徒が興味を示し、借りていった生徒もいた。

#### <生徒のビブリオトーク> 4人が発表

- ・『なぜぼくらは働くのか』佳奈 作、池上彰監修、学研プラス
- ・『死体ばんざい』星新一 作、理論社
- ・『宝島』R.L.スティーブンソン 作、岩波書店
- ・『むかしむかしあるところに死体がありました』青柳 碧人 作、双葉社

#### ③ K市C中学校

##### <笹倉のビブリオトーク> 2冊

- ・『星の王子さま』サン＝テグジュペリ 作、新潮社

- ・『世界がもし100人の村だったら』池田香代子 作、マガジンハウス



※世界で聖書の次にたくさん売れた本としても知られている『星の王子さま』を紹介した。小さな星から来た王子さまが地球に不時着し、様々な出来事を起こしていくお話。中学生くらいの年齢に読んでほしい本として、今の時代でも価値ある本だと思われる。次に『世界がもし100人の村だったら』の本はベストセラーにもなった本であるが、世界の人口を100人とするこゝで、人口問題や環境問題などのいろいろな問題がわかりやすく、中学生として考えるべき課題も多く含まれている。

#### <生徒のビブリオトーク> 5人が発表

- ・『常識なのに！ 大人も実は知らない小学校社会科のギモン』村瀬哲史 作、宝島社
- ・『D坂の殺人事件』江戸川乱歩 作、角川書店
- ・『シーラという子』トリイ・L、ヘイデン 作、早川書房
- ・『ロックとマック』なりゆきわかこ 作、KADOKAWA
- ・『あの夏が飽和する。』カンザキイオリ 作、河出書房新社

#### ④ K市立D 中学校

##### <笹倉のビブリオトーク> 2冊

- ・『モモ』ミヒャエル・エンデ 作、岩波書店
- ・『伝記 世界を変えた人々2 キング牧師』ヴァレリー・シュローデド 作、偕成社

※『モモ』は知っている生徒も少しあり、ストーリーを紹介していくと、すごく興味を示す生徒がいて、その本を借りていく生徒もいた。町の人々がいつの間にか、時間泥棒に時間を奪われて、その時間を取り返そうとモモが奮闘するお話である。『キング牧師』の「私には夢がある」(I am a dream.)ということばはとても有名である。アメリカでの黒人人種差別に対して、勇敢にも徹底的に戦った一人の牧師の伝記であるが、彼はその途上で銃弾に倒れた。その後、彼の運動が引き継がれ、やがて黒人差別解消の糸口になっていった。あまり生徒は伝記というものを読んでいなかったのも、このようなノンフィクションのジャンルの本を入れてみるのも読書の幅を広げていくきっかけ作りになると考えられる。



#### <生徒のビブリオトーク> 5人が発表

- ・『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 汐見夏衛 作、スターツ出版 文庫
- ・『5分で読める 驚愕のラストの物語』 ジャンプノベル編集部 作、集英社
- ・『西の魔女が死んだ』 梨木香歩 作、新潮社
- ・『ルビンの壺が割れた』 宿野かほる 作、新潮社
- ・『ぼくらの先生!』 はやみねかおる 作、講談社

## 4 生徒の感想から

### ① 生徒のビブリオトークの感想

次に紹介するのはビブリオトークに参加した生徒の感想である。

- ・ ビブリオトークを終えて思ったことは、本というのは人生を大きく変化させ



られる魔法のようなものだと思います。なぜかというと、私は前まではゲームやテレビばかりで、本はあまり読まない人間でした。そんな時に、テレビを見ていたら本の紹介がされていて、それは「子ども六法」という本でした。その内容は、いじめをした人は、本当はどのような刑罰になるかというもので、私はこういう社会的な本が好きなので、そういう本を読んで調べてみたいと思っています。(H.M)

- 笹倉先生のお話を聞いて、いろいろな種類の本を読んでみたいと思いました。特に、「博士の愛した数式」を読んでみたいと思いました。ピブリオトークを聞くと、本当に読んでみたいと思ったので、ピブリオトークはすごいなと思いました。簡単な小説からどんどん読んでいきたいと思っています。(Y.Y)
- 今日、笹倉先生に教えていただいて、私は本を読むことがあまり好きでないけど、読んでみようと思いました。偉大な人や数々の成功を収めてきた人のほとんどが、本をたくさん読んでいるということを知ってびっくりしました。本はいろいろなジャンルがあって、たとえ同じジャンルでも少し内容が違うから面白いと思うので、この機会に本を読んでいきたいと思いました。今日のピブリオトークの時間で本についてたくさん知ることができました。ありがとうございました。(H.T)
- いろいろなことを教えてくださってありがとうございました。本の紹介の最後に、「読んでみてください」を言わないほうがよいのを初めて知りました。本の紹介の時にも、ある程度のルールがあるのでそれらを守って本の紹介をしていきたいです。いろいろな本があって、それを選ぶのも楽しかったです。あまり本が好きでないけど、今回でちょっと好きになりました。(A.I)
- 話を聞いて思ったことは、しゃべりきれないほどたくさん本があって、たくさん世界観があるのを知りました。私だって、好きな本はたくさんあるし、本は好きだけど、けれど内容やあらすじまでも覚えていないし、他の知らない本を紹介してもらえてうれしかったです。また、「世界の美しさをひとつでも多く見つけたい」という本を借りたけれど、題名だけで何が書いてあるかわからないから、本の中の魅力を見つければ見つけるほど新しい発見

があると思うので探してみます。たくさんのお話を聞いて楽しかったです。

(S.S)

- 今日のリブリートークでは、たくさんのお話を聞いたのですが、教授が紹介してくださった「老人と海」という本は、カジキと老人の本で、老人が疲れているのにカジキをつりあげるまでねばったところが意思の強い人だと思いました。この本を読みたいと思いました。(H.U)
- 最初に笹倉先生から、「あなたたちの大切な時間を使わせていただきありがとうございます。」みたいなことを言われたが、それは僕たちが思っていたことです。いろいろな本の魅力や特徴・あらすじなどを細かく説明していただきありがとうございます。リブリートークをしているときの紹介には出てこなかった本だけど、後で本を選ぶときに先生が「モモ」を手にとると、あらすじを教えてください読んでみるようになりました。普段あまり本に関心はなかったけど、教えていただきありがとうございます。あの場所にある本のすべての特徴を知っていて、すごいと尊敬しました。(H.T)
- 私はミステリーや恋愛系、感動系のお話が大好きです。でも、漫画やアニメも好きだけど、小説はほとんど絵がないので、好きでも嫌いでもありません。でも、本の魅力を笹倉先生が教えてください、少し小説を読んでみたいと思いました。図書部の子が紹介してくれた本も面白いものがありました。あやかさんが紹介してくれた「死体ばんざい」と、なごみさんの「むかしむかしあるところに死体がありました」が気になりました。これからたくさん本を読んでみたいです。(H.H)
- 講師の方がすごくわかりやすく、いろいろな本に出会うなら今で、たくさんのお本に出会いたいと思いました。私は「博士の愛した数式」を借りました。理由は、過去にこの本は面白いと聞いていて、講師の方のリブリートークで、映画化もされ、あらすじも興味を持ったので、そこに惹かれて読んでみたいと思いました。図書部のリブリートークもとてもよかったし、知っている本も知らない本もとても読んでみたいと思いました。私も人を引き付けられるリブリートークをしたいと思いました。(Y.F)

- 私は今日のビブリオトークを聞いて、今までは本をよく読む方で好きだったけど、今まで以上に本に興味がわき、本を好きになりました。そして5人発表してくれた中で、一番気になったのはTさんが発表した本です。戦争というワードで戸惑いもしたけど、とても読みたいと思うようになりました。その本を見つけて手に取って読みたいです。(無記名)
- ビブリオトークをしてくれた人がとても伝え方が上手くて、私も本が読みたいになりました。最初、後ろに本がたくさんあって、見に行けるかなとわくわくしていました。私は「獣の奏者」という小学6年生の時の担任の先生に薦めてもらった本を選びました。小学校の時には読めていなかったので、じっくり読みたいです。このビブリオトークでいろいろな本が知れたので面白かったです。機会があれば、図書館に行って本を読みたいです。(無記名)
- 私はこのビブリオトークを通して、すごく心に残りました。理由はみんなすごくいい本を紹介していて、私は本があまり好きでないけど、読んでみたいなあーと思ったからです。理由は、私は映画とかだったら感動系も好きな方なので、Tさんのスピーチを聞いてとても感動できそうだからと思ったから、読んでみたいと思いました。(無記名)
- 今日は笹倉先生や、同じ仲間に数々の本を紹介していただき、その一冊一冊の魅力が伝わってきて、とても話の続きが気になりました。私も、最初この会が始まる時は、すごく緊張していましたが、皆さんのビブリオトークにひかれて、私も自分が紹介する本の魅力を伝えたいと思いました。結果、ビブリオトークでセリフが飛んでしまったところはあったものの、楽しみながらみなさんと、この本の魅力について共有できたかなと思います。会の終わりには、気になる本の貸し出しがあって、借りた本以外にも、心が揺れ動かされる作品があったので、これからたくさん本を読み、自分の世界を広げていきたいです。(無記名)
- 笹倉先生に紹介していただいた「モモ」という本は、自分も少し読んだことがあります。最後まで読めていなかったけど、今日のあらすじ紹介を聞いて、ますます読みたいになりました。そして本というものは、もしかしたら自分の

人生を変えてくれるかもしれない。だから、もっといろいろな本に目を向けて、読んでいきたいと思います。(無記名)

- 私も最近、小説が好きになりました。本は想像が高まるし、普段知れない言葉や、作者の思いを感じとれるから好きです。私は最初に表紙や題名を見て決めてしまうから、笹倉先生が教えてくださったように、5分ほど味見読書をしてから読みたい本を見つけたいです。いろいろな本を読んで、感性を豊かにしていきたいです。そして私自身が人におすすめできるように、もっと本を読んでいこうと思います。(無記名)

## ② 生徒の感想文のまとめ

ピブリオトークを実施した生徒の感想から感じられる点をいくつか箇条書きでまとめたい。

- ピブリオトークの話を聞いて、その本を読みたいという生徒が出てきた。
- 自分でもピブリオトークをやってみたいという生徒がいた。
- ピブリオトークの研修会に参加して、中学生時代に本を読むことの意義に気づき、本を読んでもみようと思った生徒がいた。
- ピブリオトークで紹介した本を実際に借りて読もうと感じた生徒が何名かいた。
- このようなピブリオトークの体験が初めてであるから、本があまり好きでない生徒でも読んでもみようかなと思わせる機会になったようである。
- 本の紹介の中で、キーワードに興味を持ち、読みたいという気持ちになった。(興味関心の分野に注目している。)
- 学校の先生に薦められて、本を読んでもみようという気持ちになった。
- 本を紹介する楽しみを味わいながら、さらに他の本への興味を持つ生徒もいる。
- 読みかけた本をやめていたが、あらためてあらすじを聞くことで読み直した生徒がある。
- 本の最初の部分だけを読むという味見読書に興味を示す生徒がいた。

## 5 ビブリオトーク研修会の分析・考察

子どもたちの成長の過程で、読書がいかにより多くの実りをもたらしてくれるということを実感することで、学校や教師の取り組みが大きく変わってくる。そしてそれを児童生徒自身が自覚することで、生涯にわたって読書というものが大きな喜びであり、自分の可能性を広げていくものとして身につけていくと考えられる。「一度、金の鉱脈を見つけた子どもは、ずっとその金の鉱脈を掘り続けていく」と言った児童図書館員がいたが、その通りだと思われる。そういう子どもたちになってほしいものであるが、子どもが読書好きになるには、子どもの周りにはいる大人の責任であるとも言われている。このことから、学校、家庭、図書館などでの読書環境整備がいかに大切であるかが窺える。

### ① 組織として取り組むことの重要さ

今回はビブリオトークが市全体の事業、取り組みとして実践されている。クラスごとに熱心な先生が読書活動推進に取り組んでいるケースはよくみられる。それが学年全体での取り組みであれば、もっと意義の多いものになるであろう。クラス替えをすれば、単独クラスだけの取り組みでは、さらなる発展はないからである。また、それ以上に学校全体の取り組みとなれば、もっと充実した読書活動の取り組みになっていくことは明らかである。

今回のように、学校ごとではなく、市全体での取り組みは、学校教育を考えていく上でとても重要な意味を持っている。学校の読書活動支援を教育委員会や公共図書館がバックアップできるということは、いろいろな読書活動の推進へと発展していくからである。このことは教育委員会や公共図書館が学校教育における読書の意義を十分に理解していると思われるからできるのである。例えば、NDCの分類一つをとっても市全体で統一して取り組んでいる市もある。また学校図書館のマークと公共図書館のマークを統一し、OPACの検索が容易になり、資料をお互いに貸し借りができるシステムを作っている市もある。さらに、調べ学習や資料の補充として、学校図書館の不十分な蔵書を公共図書館がバックアップしているところもある。(※公共図書館から学校図書館への貸

し出し用として活用されている。)

② 生徒のビブリオトークの発表から気づくこと（発表者について、生徒が気づいた点）

- 物語を楽しむための「伏線」の存在に気づくことで、それが感動につながっていく。
- 物語の設定の面白さに気づく
- 最後の結末のすごさを体験しながら最後まで読むことに読書の楽しみがある。
- 本を読むことで、その著者が好きになり、ある教科が大好きになった。
- 本を読んだ感想を家族と共有し、感想を聞いてみる。
- 本を読んで、その著者のほかの作品にまで興味を持つことができた。
- 物語を読むことで、あらためて人間の弱さに気づく。
- 本が苦手な人でも読んでいくことができるような本があることを知らせている。
- 本を読みながら文章の表（おもて）の意味や、その裏（うら）の意味まで考えることで、読み解く力がつくと言っている。
- 本を読むことで、動物や人間の命の尊さを学び、将来、そのようなことに貢献できる仕事に就きたいと考えるようになる。
- 本を読み、障害のある子どもたちの実情などを知ることによって、将来自分が役に立ちたいと思うようになった。（※社会福祉士）
- 推理小説を読む楽しさを順番に解説している。
- 物語の登場人物のキャラクターに注目することで、興味が深まる。
- 実際読んで、本嫌いな自分でもこの本を好きになったことを説明し、他の生徒に読書を薦めている。

### 3 まとめと今後の課題

今回のビブリオトークの実践から次のような課題が考えられる。

- 集団に対してのビブリオトークは、生徒の読書意欲を刺激する一定の効果が

あることは実証できるが、それをどのように継続し、読書意欲につなげていくかが大きな課題である。⇒学校図書館の蔵書では、生徒の読書意欲を十分に満たすことはむずかしい。だから、公共図書館がどのようにバックアップしていくかも大きな課題である。

- 今回のビブリオトークの実践を各中学校での教育課程に位置付け、どの学年でも実施できるようにすると、さらに充実していくと考えられる。
- ビブリオトークの発表資料をブックリストにし、今後、各生徒が読みたい本を探す資料としてもよい。発表資料をまとめて文集のように製本して扱ってもよいのではないだろうか。
- 集団の読書指導だけでなく、個々の生徒の個別の読書指導をどのようにするかも大きな課題である。
- テーマを決めてビブリオトークを行うなど、調べ学習や読書意欲につなげる活動に広げていくことも重要である。
- 生徒は友達が読んだ本にかなり興味を示している。一方、教師からの本の紹介に興味を示す生徒がいることも忘れてはいけない。もっと、先生からの積極的な本の紹介があってもいいのではないだろうか。
- 読むことで何を気づき、新しい何を発見したかを表現できる生徒を育てていくことが大切ではないだろうか。

## おわりに

今回のビブリオトークの実践から、多くのことを気づかされた。年に1回だけの実践であっても、生徒にとってはとても貴重な時間であり、今までにない新しい試みの時間であったと思われる。

読書とは何か、という命題は昔から多くの偉人が語ってきているが、それは簡単な言葉では言い尽くせないほどのいろいろな要素を含んでいると言ってよい。ただ、ヤングアダルト世代にとっては人間形成に欠くことのできない活動であることは誰もが認めている事実である。

学校教育では特に気を付けないといけないことであるが、ややもすると読書

の意義が学習や勉学の「ためになる」という発想で生徒に読書を薦めると抵抗感を示すものが多いこともわかっている。平たく言えば読書の意義や目的は「楽しみ」というキーワードがもっともふさわしいと考えられる。その楽しみをどのように演出していくかは、それぞれの学校に委ねられてくる。情報機器が発達してきた今日、SNSやゲーム等の影響で活字文化を深めていくことが難しい局面を迎えている。そういう世の中であるからこそ、しっかりと読書で「心の根」や「創造・想像の翼」を養っていくことがますます求められているように考えられる。

読書を重ねることで思考が練られ、様々なものの見方や考え方が養われ、それがやがてより豊かな人間性を育むことになると思われる。また、他人の気持ちや思いをくみ取り、相手の心情をも理解できる生徒への育成につながっていくと確信している。、ヤングアダルト世代を取り巻く環境はよいものばかりでない。その中で、自分の目でよいものやよくないものを見抜ける目を持つことも大切になってきている。オスカー・ワイルドは、「読まなくてよい時に読んだ本が、やがて役に立つことがある。」と言っているが、読書した体験が脳細胞にずっと残っていて、それが人生の岐路や課題に出会ったときに、解決の糸口になっているケースもある。

子どもを取り巻く読書環境というものを、子どもの周囲にいる大人たちが再度考えるべき時代にきているのではないだろうか。

---

### <参考資料>

各中学校の生徒のビブリオトークについて、その発表の一部を掲載したい。

- ・『どこよりも遠い場所にいる君へ』阿部暁子 作、集英社

私が紹介する本は、「どこよりも遠い場所にいる君へ」です。作者は阿部暁子さんと、ロマンス大賞という賞を受賞されています。また「アオハライド」という作品が有名です。ビブリオトークにこの本を選んだ理由は、主人公と年齢が近く、第21刷りも発行されていて、人気がある本だから紹介したら読んで



もらえるかなと思ったからです。

このお話は、秘密を抱えた主人公（月ヶ瀬和希）は、知り合いのいない環境を求めて、離島の采岐島高校に進学します。そして島には「神隠しの入り江」と呼ばれる場所があり、和希はそこで少女が倒れているのを発見します。病院で意識を取り戻した少女の名前は七緒、16歳。そして、身元不明。七緒は千九百七十四年と、つぶやきます。住所も電話番号もすらすらと言います。しかし、どれも存在はするが、今は使えないものばかりです。七緒はうそをついているようには見えません。七緒は何者なのか、主人公の秘密とは何なのか、解決していくお話です。

この本のお薦めのところは、なにげない学校行事とかも、すべて伏線としてつながっていて、最後にすべてが解決してすっきりするところです。とても感動しました。

この本を読むと、最初は寮生活を送っている4人の男子グループのお話から始まります。そして、毎晩開かれるオセロ大会、みんなで食べる朝ごはん。洗濯を自分でしないといけないのは嫌だけど、修学旅行みたいで楽しそう。私も混じりたいと思っていました。平和な話かなと思っていたら、主人公の一番の悩みのもとをつくったのは、もしかして仲の良い友達だった？ よくある話でありそうだが、今までなかったんだと思いました。

この本の一番面白いところは、時空を超えられることはできても、超える世界を選ぶことができないし、自分のいない世界にしか行けないことです。だから、過去の失敗をただすことや、自分が亡くなった後の世界は見れても、未来の自分を見ることはできません。同じ時間の世界に2人の自分が存在してはいけないという設定です。この設定に主人公は振り回されながら、青春していくお話。この設定を考えた著者の阿部さんは、どんな人なんだろうなと思いました。ラストがとにかく最高です。「どこよりも遠い場所にいる君へ」をぜひ読んでください。(M.T)

- ・『常識なのに！ 大人も実は知らない小学校社会科のギモン』村瀬哲史 作、宝島社

みなさんは、テレビ番組のネプリーグを知っていますか？ この番組はクイズバラエティーで、学校で習う国数英理社や最近のニュースを問題としていて、その問題を東進ハイスクールの林先生をはじめとした講師陣がわかりやすく解説しています。その中で地理を担当している方が、私がおすすめている本の『常識なのに！ 大人も実は知らない小学校社会科のギモン』を書かれた村瀬哲史先生です。この先生は関西弁をしゃべり、ラガーシャツを着たぼっちゃりした人ですが、みんなは知っていますか？ 私は正直、小学生のころは社会科が苦手で、「社会は覚えるだけ」で「そもそも面白くない」と思っていました。でもネプリーグを通じて、地理の問題に対して、私たちになじみのある関西弁でテンポよく話され、その問題の答えに関係する雑学をそっと織り交ぜるので、するとその答えの裏に隠された地理という名の財宝を見つけたような気持ちになり、「なるほど！」「そうだったのか。」と社会科の魅力に引き込まれ、社会科がどんどん好きになったのです。私の社会科に対する苦手意識を変えてくれたのは、今思えば、この本の著者である村瀬先生だったと思います。

ここで私のお薦めする本からのネタを一つ紹介します。

#### 【問題】

「富士山の頂上は山梨県と静岡県のどっちのもの？」という問題があり、普通は答えとして、どちらでもありません、で終わってしまうところですが、村瀬先生は次のように解説されました。

新幹線の車窓からは、条件が整えば富士山を見ることができます。きれいに見える日は、カメラのシャッターを切る音があちこちから聞こえてきます。その富士山は静岡県と山梨県にまたがる山ですが、頂上はだれのものだと思いますか？

正解は、国が富士山本宮浅間大社（ほんぐうせんげんだいしゃ）という境（神社の敷地）として与えました。その後、明治時代になり、一時的に国のものとされた時期もありましたが、現在は8合目より高いところの大部分が浅間

大社の境内となっています。

では県境はどうなっているのでしょうか。国土地理院発行の地図を見ると、7合目付近までは県境が入っていますが、8合目以上は県境が入っておらず、はっきり決まっていないのがわかります。

以上のように書かれています。その他にもこの本では、「江戸時代の人はトロを食べなかったって本当なの?」とか、「サバ缶の生産量が急激に伸びた理由は?」といったお題があり、大人でも知っているようで知らないことや、思わず「なるほど!」とうなるようなお題が盛りだくさんな本です。実際、私のお父さんもこの本を読んで「そうやったんか。」「マジでかっ!」と言っており、まさにこの本の題名である「大人も知らない小学社会科」の疑問が詰め込まれた、私たち世代だけでなく、両親たちなどの大人も楽しめる一冊だと、私はこの本を強くお勧めします。

私が苦手教科だった社会科を楽しいと思えるようになったのは、村瀬先生という方とテレビを通じて知り合ったことが一つのきっかけでした。私は社会科以外でも苦手な教科があるけど、無理に好きになろうとせず、学校の各教科の先生を尊敬し、その授業を楽しむことで苦手教科をなくしていくこともできるのだということ、私はこの本を読んで思えるようになりました。(K.Y)

・『あの夏が飽和する。』カンザキイオリ 作、河出書房新社

私がお薦めする本は『あの夏が飽和する。』です。

この本は2020年にリリースされ、人気を誇った楽曲、『あの夏が飽和する』の世界から13年後の物語である。彼女を救うことができず、無気力のままで大人になった主人公。彼は彼女のことを忘れられず、哀しみ苦しむ。そんな中、救うことができなかった彼女の生き写しのような人が主人公の前に突然現れるのです。主人公は彼女に強烈に惹かれていく。一方、彼女には人知れぬ闇が隠されていたのです。彼女は同級生でバイト仲間の男子と悲劇的な計画を決意。それに気づいた主人公の脳裏に、13年前の出来事がよみがえってきます。変わる人生。破滅に向かう二人。主人公は彼女を救うことができなかった哀しみ、

苦悩、そして後悔。それを胸に今度こそ、あの時言えなかった言葉を伝えて、二人を救うことはできるのか。戦慄の決行日は二学期の始業式。命を懸けたひと夏の闘いが始まる、というあらすじの物語です。

ところでみなさん。「カンザキイオリ」を知っていますか。この本の作者はあの有名な「命に嫌われている。」を書いた人です。少々悲観的な曲で心をひかれた人も多くいると思います。私もこの曲で好きになりました。

この本は先ほど言ったように、曲の続きとして書かれています。私は作者のカンザキイオリさんのことは前から好きだったこともあって、本の存在を知って、すぐに本屋へ探しに行き、買いました。この本は3人称で書かれています。登場人物の視点が変わるがわる変わっていくのですが、自分自身の視点と、他人から見た自分の印象が違うので、少しわかりにくいこともあるかもしれません。でもこの文章で読解力がつくと思います。

この本も曲も少しショッキングです。ですが、そこには深い意味が隠されていたりします。例えば、「生きて、生きて、死ぬ」というセリフがあります。これは、これだけ見るとあまり良いイメージは持てません。でも、この言葉の前に注目すると、主人公が救うことができなかった彼女が亡くなる直前に主人公へかけた最後の言葉だとわかります。彼女は生き方を間違え、そこから命を絶ちました。人はだれしもいつか死んでしまいます。この言葉には、「生き方を変えて、正しく生きて、生きて、死ぬ」という意味なのではと私は思います。

この本の魅力は人の感情の表現です。登場人物の、友人、家族、愛、狂気、闇、希望、絶望などの内面の感情が繊細に色濃く書かれています。この作品を読んで、すべての感情は愛おしく、失ってはいけない感情だと思いました。また、人の弱さが上手く書かれていると思います。心が壊れる寸前の時、誰かがそばにいるのか、独りなのか、周りにいる人はどんな人たちか、状況によって選択の幅がだいぶ違う。人って完璧じゃないから歪みが出てくる……。その通りだと思います。人が完璧なら、嫉妬も、うらみもないと思います。人の弱みを考えさせられます。

この本の文章は単調で、分厚いですが、テンポよく読み進められます。日記

のような一つ一つのたくさんのまとまりがあって、その一つが4ページほどで、2～4分ほどで読めます。1日に10分ほど8ページ以上読めば、1か月で読めます。読書が苦手な人も、読んでいくことはできると思います。人の感情や状況の説明もわかりやすく繊細なので、物語に入り込みやすいです。物語が進むにつれて変わっていく登場人物。彼・彼女たちは何を目的にこのやりきれない現状を打破するのか、そして得て失っていくものとは。本当の正しい道とは何なのか。必死に救いを求め、進みゆく姿をみなさんも味わってみてください。

この本にはあまりよいイメージではない言葉や内容が書かれています。それでもそのことばの意味は自分が思っているものと違うかもしれません。話の前後を理解して読んでいくと、意味深な言葉が大切な言葉へと変わっていくと思います。

このようにこの本を読んで、自分の都合の良いところだけ見て思いこむのではなく、他に意味はないのか、隠された裏はないのかを読み解いたり、考えたりする力もつく本です。ぜひ読んでみてください。(S.K)

・『ロックとマック』なりゆきわかこ 作、KADOKAWA

私がお薦めする本は、『ロックとマック』という本です。

2011年3月11日に東日本大震災が起きました。この本は、犬がこの地震を体験したお話です。宮城県で迷子になった目の見えない犬が、たくさんの人によって助けられた話と、福島県の動物病院で、飼い主が避難してしまい、4匹の犬が力を合わせて、一匹の犬の子どもを産むことができたという、どちらも本当の話です。地震はとてつらく、悲しい出来事でしたが、あきらめず前を向いて歩いていく大切さを、この物語に出てくる犬たちは私たちに教えてくれます。

私はこの本を読んで、大きな地震で人だけでなく、犬も大きな被害を受けたことや、地震だけでなく津波や放射能によってたくさんの人々の命が奪われたことを知りました。そして、家族といっしょに暮せない犬たちを預かって世話をしたり、迷子になってしまった犬たちの飼い主を探したりしているドッグウッドという動物保護団体があるということも知りました。そこで世話をしている

犬、猫は、地震から約10か月で438匹という数に驚きました。でもこれだけでなく、もっともっとたくさんの犬や猫たちが、悲しい思いをしているのです。

私もこの犬たちのように、大変なことがあってもあきらめないようにしたいと思いました。

あの地震で何が起きたのか。自分だったらどうするのか。みなさんも考えてみてください。犬、動物が好きな人、本当にあった話を読むのが好きな人にお薦めの本です。(R.S)

・『シーラという子』 トリイ・L、ヘイデン 作、早川書房

私がお薦めする本は、トリイ・ヘイデンさんの「シーラという子」です。この本はアメリカの特殊学級で、当時先生をしていた著者、トリイと少女シーラの成長についてノンフィクションとして書かれた本です。シーラは幼いころに、母親に捨てられて、父親からも虐待を受けます。そして特殊学級に入学してきます。そこで出会ったのが学級担任のトリイです。彼女は、そのクラスの中でも問題児で、なかなかクラスにもなじみませんでした。でもトリイはあきらめず、シーラを立派な大人にしようと頑張ります。そこで明らかになっていく、シーラの秘密を解き明かしていくお話です。

私がこの本を読んで思ったことは、「見ていた世界が狭かったんだな」ということです。これまでファンタジーやSF小説しか読まなかった私からすると、世界の様々な問題に気づくことができませんでした。この本の中では、虐待が大きく取り上げられています。虐待のことは、ニュースでなんとなく知っていたけれど、こんなに詳しく知ったのは初めてでした。そして私は、今生きていることが幸せなんだなと感じました。虐待で死んでしまう子どもたちがいるとわかって、とても怖かったし、悔しかったです。

私たちより小さな子どもたちが、とてもつらかったことが伝わってきました。だから私がこの本を通じてみなさんに伝えたいことは、今、私たちはふつうに生活できているということです。シーラのように、母親に捨てられて愛情を十分にもらえずに、孤独の中で生きなければならない人も世界にはたくさんいま

す。だから、今ふつうにご飯を食べて、学校に行けることのすばらしさを感じてほしいです。

私がこの本を読んだのが小学5年生の時です。その時は驚きでただ読むだけでした。でも、この本を読んでからドキュメンタリーや歴史などにも興味を持つようになり、シーラミみたいな人たちを減らしたいと思いました。

だから、私は将来、社会福祉士になって困っている子どもたちの助けになりたいです。(S.K)

#### ・『D坂の殺人事件』江戸川乱歩 作、角川書店

私が紹介する本は、江戸川乱歩の『D坂の殺人事件』です。

この物語の舞台は、東京のD坂の大通りです。主人公の「私」は、9月初旬のある蒸し暑い晩に、白梅軒という喫茶店で、コーヒーをすすっていました。すると、「明智小五郎」という探偵小説好きの妙な男がやってきました。二人は、むだ話をしながら、ふと向かいの古本屋を見ました。すると、いつも夜は店番をしているはずの、古本屋の女房がいないことに気づきました。おかしく思った「私」は、「明智小五郎」と一緒に、古本屋の様子を見に行きました。奥の間に上がると、二人は「あっ」と大きな声をあげました。なんと、そこには首を絞められた女房の死体が横たわっていました。それから、すぐに警察が来て、取り調べなどが行われました。だが、関係者の意見はちぐはぐで、犯人はどんな人物なのか、まったくわかりませんでした。

そして10日ほどたったある日のこと。「私」は「明智小五郎」の宿を訪ねていました。その日、二人は10日の間に考えたお互いの意見を聞きあっていました。私は明智小五郎が犯人だと推理をするのですが、それを聞いた「明智小五郎」本人は、ゲラゲラと笑い出します。果たして、本当の犯人は誰でしょうか。

みなさんは、この本を書いた「江戸川乱歩」という人物を知っていますか。名探偵コナンの主人公、「江戸川コナン」の名前の由来にもなった、とても有名な小説家です。江戸川乱歩は、明治27年に生まれ、大正から昭和にかけて、大活躍しました。代表作には、『D坂の殺人事件』以外にも、『孤島の鬼』や

「少年探偵団」などがあります。江戸川乱歩の作品の中には、王道的な本格推理小説から、ふつうでは考えられないような変わった小説もあったそうです。江戸川乱歩をモデルにしたキャラクターが書かれていたり、広い世代から愛されたりしていることがわかります。私は、実際に江戸川乱歩の作品を読んでみて感じたことがあります。

一つ目は、自分自身が推理をしながら読み進んでいくことができる点です。取り調べへのシーンがとても細かく書かれているので、ただ読むだけではなく、自分で犯人を見つけながら読めます。まるで物語の世界に入った様なスリルを味わえるかもしれません。

二つ目は物語で語られる、その推理のレベルが高いという点です。この「D坂の殺人事件」の中では、「私」と「明智小五郎」の二人の推理の違いを比べたり共通点を探したりして、推理を楽しむことができます。簡単なものもあれば、難しいものもあるので、飽きないストーリーになっています。

三つ目は、一人一人のキャラクターの個性が濃いという点です。例えば、「明智小五郎」は探偵小説好きで、とても頭が賢いのに、部屋が汚かったり、歩き方がおかしかったりします。このように、とても魅力的な人物が多く、読んでいても面白いのです。

四つ目は「はじめ、中、おわり」がはっきりしていて、読みやすいという点です。小説などは、本が苦手な人からしたら、少し読みにくいかもしれません。しかし、これは「事実」と「推理」の二部構成になっているので、読み返しやすく、わかりやすくなっています。あまり、本を読むのが得意ではない私でも、この本を好きになることができました。

探偵小説の作家の中でも、世界的に知られている「江戸川乱歩」の「D坂の殺人事件」。みなさんも、一度手に取って見たらどうでしょうか。本が好きな人も、本が苦手な人も、本にチャレンジすることで、今までよりもずっと世界が広がると思います。

この「D坂の殺人事件」の本は、他にも「何者」や「二銭銅貨」などの短い話がたくさん入っています。だから、読みたいと感じたお話から読んでみては



どうでしょうか。ちなみに、私のお薦めは「二銭銅貨」です。この物語は、ある電気工場に大泥棒が入り、その事件を解決していくというものです。探偵小説でも、面白さがあって、とても楽しく読めました。また、昔の日本が舞台となっているので、歴史の勉強にもなります。「江戸川乱歩」の作品は、他にもたくさんあるので、ぜひ読んでみてください。

・『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』汐見夏衛 作、スターツ出版  
文庫

この本を読んだあらすじから紹介したい。親や学校、すべてに反抗しながら毎日を送る百合。母親とのけんかで家を飛び出し、目を覚ますとそこは70年前。戦時中の日本でした。困惑の中、猛暑にやられうずくまっていると、偶然通りかかった彰に助けられたのです。そんな彼と日々を過ごしている中、百合はまっすぐで優しい彰に惹かれていくのです。だが、彰は特攻隊員で、敵地に飛び立つ運命だったのです。

この物語は、どれだけ戦争が残酷なものなのか、本当の平和とは何か考えさせてくれます。私のおすすめは、戦時中の日本にタイムスリップした「加納百合」と、そんな百合をどんな時も助け守った特攻隊員の「佐久間彰」の別れと、その後の百合の話です。百合は彰のまっすぐで優しいところに惹かれ、彰は特攻隊員で死を覚悟しているから、想いは報われないとわかっているにもかかわらず、とうとう彰にも特攻の出撃命令が下されます。百合は、いつか彰と一緒に話したあの丘で、真っ白な百合の花が咲く丘で何度も「行かないで」と繰り返します。ですが、百合は彰の気持ちを変えることができませんでした。そしてある日、百合は学校の社会科見学で「特攻資料館」を訪れます。そして、館内で数々の特攻で亡くなった方たちの遺書を見ます。何人かの遺書を読み、次へ視線を向けると、百合は目の前が真っ白になりました。そこにあるのは彰の字で書かれた手紙。—「百合へ」。その手紙には・・・。

最後に、この本の中からクイズ（ビブリオクイズ）を出します。

ある日の昼前、彰と百合は一緒に出かけ、「甘味処」と書かれたのぼりが掲

げられた店に入った。そこで二人が食べたものは、次のどれでしょう。

①かき氷、 ②ソフトクリーム、 ③ ようかん、

この本を読んでみて確かめてくださいね。

以上がビブリオトークの研修会で発表した生徒の原稿の一部です。